

ショートコメント vol.150 (2019年9月6日)

テーマ：大都市圏をめぐる外国人の移動に変化

～転機は4月前後。新在留資格の導入が一つの要因か～

●外国人の移動に変化

総務省の住民基本台帳人口移動報告によると、今年に入り、外国人人口の移動に変化がみられる。その変化は3大都市圏の全てで生じているが、関西では前年比で増加、南関東、東海は減少と、その変化は真逆となっている(図表1~3)。

変化の出方は異なるが、共通しているのはそのタイミングであり、どの地域も4月前後での変化が目立つ。今年の4月といえば、外国人の新在留資格「特定技能」が導入されたタイミングである。もちろん断定はできないが、それに伴う変化の可能性はあろう。

●新たな在留資格との関係

総務省の「住民基本台帳人口移動報告」は日本国内での移動が対象であり、海外から日本への移動は含まれない。したがって、4月前後の変化は、新資格の導入にあわせた入国ではなく、すでに入国済みの外国人によるものである。

この場合、想定される動きの一つとして、あくまで仮定であるが、「技能実習」からのシフトが挙げられよう。新資格「特定技能1号」は、一定の研修期間を終えた技能実習生にも付与される。したがって、新資格の付与とともに、関西へ入ってくる動きが増えた可能性についても否定はできない。

今のところ、新資格「特定技能」の動向については、まだ明らかになっていない。ひとまずはデータが出そろうのを待ちつつ、引き続き移動のトレンドを注視したい。

●関西の人口問題に差す光

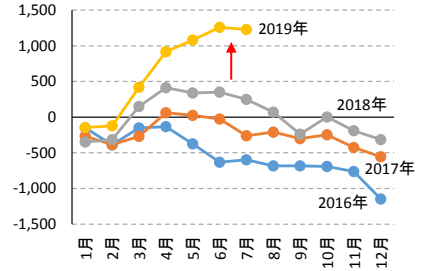
一方、関西に関していえば、今年に入って日本の移動もかなり増加している(図表4)。これは非常に明るい動きであるが、さらに足元で外国人の流入も増えていることから、人口移動に関しては間違いなく改善傾向にあるといえよう。

すでに述べたとおり、外国人の流入が上ぶれしているのは、大都市圏では関西だけである。南関東、東海は下ぶれ、特に東海は日本人の移動も下ぶれしていることから、関西とは明暗が分かれる格好となっている。

関西の日本人の移動は女性が押し上げている。これで外国人の流入も増えているとなれば、今後の人口問題に対し、一筋の光が差し始めたともみることができよう。

【図表1】

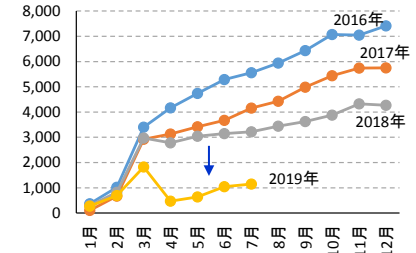
(人) 【関西】外国人の転入超過数の月次累計



(出所)総務省「住民基本台帳人口移動報告」、以下同じ

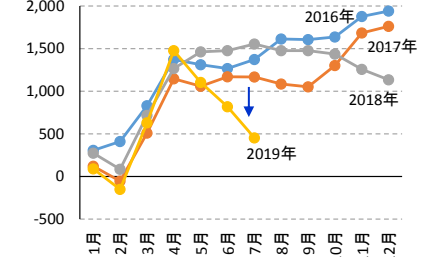
【図表2】

(人) 【南関東】外国人の転入超過数の月次累計



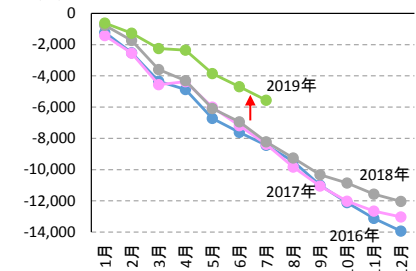
【図表3】

(人) 【東海】外国人の転入超過数の月次累計



【図表4】

(人) 【関西】日本人の転入超過数の月次累計



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。